

群 教 セ	G02 - 02
	平15.216集

マルチメディア資料集

「ふるさと おにしまち」の作成

- 地域に残る文化財に視点を当てて -

特別研修員 山田 康成（鬼石町立鬼石小学校）

《研究の概要》

本研究では、小学校4年社会科単元「地域の古いものさがし」の学習において、児童が興味・関心をもって、鬼石町の歴史や文化財を調べることができるマルチメディア資料集「ふるさと おにしまち」を作成した。この資料集を活用することで、児童が自主的に調べ学習に取り組み、文化財を守るための人々の努力に気付くことができるようにした。

【キーワード：社会 - 小 地域教材 マルチメディア 鬼石町 文化財】

主題設定の理由

小学校学習指導要領社会科中学年の目標には「地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする」と示されている。これを受け、第4学年では、地域の人々の生活について、「地域に残る文化財や年中行事」を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考える学習を行う。

しかし、鬼石町に残る文化財や年中行事を扱う単元「地域の古いものさがし」の学習では、対象となる地域が広範囲になるために体験的な学習を行うことが難しい。また、鬼石町という限定された地域の学習であるため、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるための資料も少ない。そのため、児童の文化財に関する知識もほとんどなく、実際に文化財を見たり触れたりする体験的な活動を取り入れたとしても、文化財は身近なこととして感じにくく、興味・関心をもつことが難しい。

そこで、児童が自主的に鬼石町の歴史や文化財の学習に取り組むことができるようにするために、文化財に関する動画や静止画などの資料を収集し、その資料を児童にとってわかりやすいように場所や年代ごとに整理し、授業の中で簡単に活用することができるマルチメディア資料集を作成することにした。さらに、調べ学習の充実を図るため、文化財の歴史的背景なども詳しく説明できるような資料や素材を多く集め、資料集に入れることにした。

また、本校では、「鬼石町を知ろう」という学校テーマのもと、総合的な学習の時間を進めているため、ここでも活用できるような資料集の作成を心がけた。さらに、年表と関連付けた文化財の表示や発展的な資料を掲載することで、6年生の歴史の授業でも活用できるようにした。

地域の文化財に視点を当てたマルチメディア資料集の活用は、児童の学習に対する興味・関心を高め、郷土の歴史に気付き、より詳しく調べようという意欲を育てるのに有効であると考えられる。さらに、文字だけではなく動画や静止画を扱うことで、事象を視覚的・感覚的に把握しやすくし、関連する内容をリンクによって表示できるようにすることで、自分たちの課題に即して発展的に学習を進めることが可能になると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

小学校4年社会科単元「地域の古いものさがし」の学習において、児童が興味・関心をもって、鬼石町の歴史や文化財を調べることができるマルチメディア資料集「ふるさと おにしまち」を作成し、その有効性を授業実践を通して明らかにする。

研究の見通し

鬼石町にある文化財に関する動画や静止画などを収集し、それらを効果的に組み合わせることで、児童の興味・関心を高めるマルチメディア資料集ができるであろう。また、本資料集を活用することで、鬼石町の歴史や文化財を調べる学習において、児童が自主的に学習に取り組み、文化財を守るための人々の努力に気付くことができるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア資料集の概要

(1) 基本的な考え方

コンピュータ操作が得意でない児童にも簡単に操作できるように以下の点に配慮し、HTMLを用いて本資料集を作成した。

ア 興味・関心を高めるための工夫

文化財への興味・関心を高めるために、「文化財に行ってみよう」という動画を作成した。これは、ビデオカメラで代表的な文化財に行くまでの様子を断片的に撮影、編集したものである。自らが通う小学校など、児童にとってなじみ深い場所から始まり、やがて少しずつ文化財に近づいていく様子を見せることにより、興味をかき立てることができると考えた。

イ 調べやすくするための工夫

本資料集は、小学校4年生以上を対象としているため、4年生が読んでも内容がわかるように、難解な語については言い換えを行い、漢字についてはルビを付けるなど文章を改め、児童の興味・関心を損なわないようにした。文章表現も説明的な文に終始することなく、話しかけるような文体にした。

専門用語や固有名詞などの語を説明する場合、そのような語にリンクを設定し、動画や静止画を用いた注釈のページを表示するようにした。

ウ より深く理解するための工夫

動きや音のある動画は、文字や写真のみでしか表せなかった従来の書物にはないマルチメディア資料集の最大のセールスポイントであると考え、ビデオカメラで撮影したものを動画として、本資料集に取り込んだ。

エ 動画・静止画について

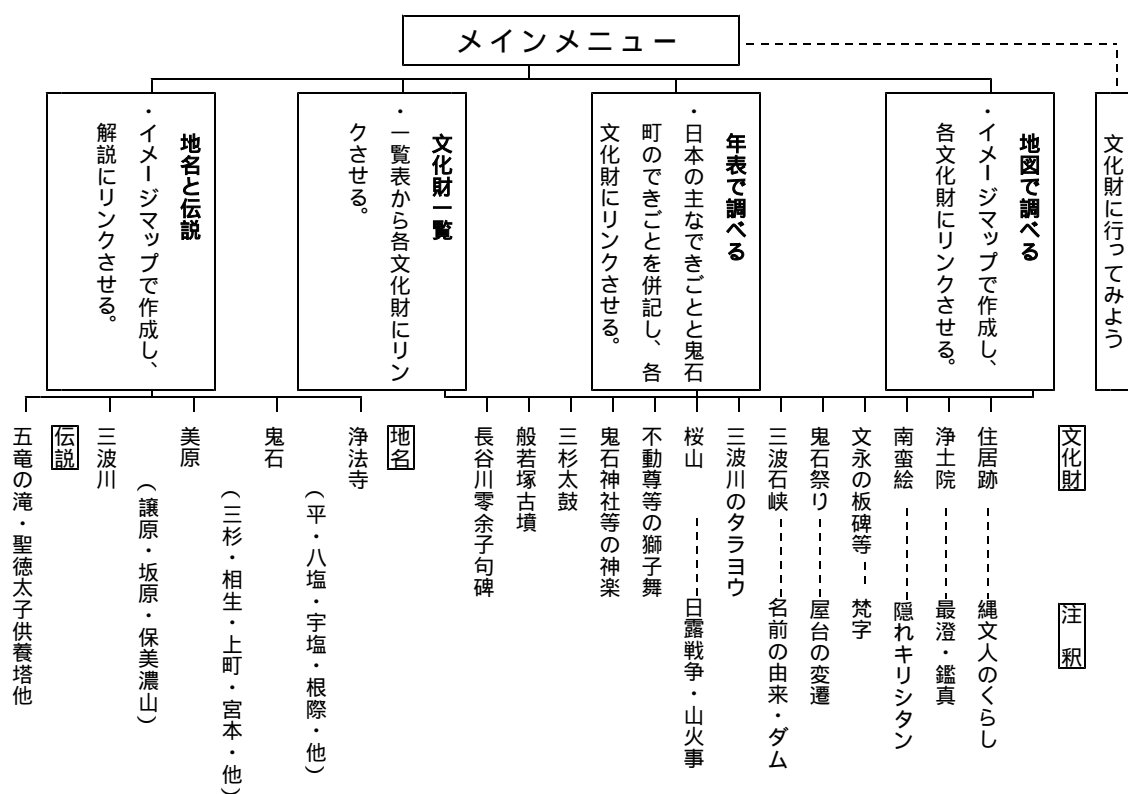
動画・静止画は作成者自身の撮影を主とするが、鬼石町教育委員会及び G-TaK 提供による動画も掲載した。また、Web 上にある静止画を撮影者の許可を得て掲載した。

(2) 本資料集の構成

本資料集の構成は以下の通りである。なお、フレームを使うことにより、「地図で調べる」、「年表で調べる」、「文化財一覧」、「地名と伝説」の項目を「もくじ」として、常に画面上に表示させるようにした。

また、国・県・町指定の文化財については、動画「文化財に行ってみよう」を作成し、それぞれの文化財のページから閲覧できるようにしてある。

(マルチメディア資料集の構成図)



2 マルチメディア資料集の内容

(1) トップページについて

鬼石町の文化財や歴史を学習する目的に合わせて、メインメニューには、

地図で調べる 年表で調べる
文化財一覧 地名と伝説

という4つの項目を設けている(図1)。

児童は、調べる事柄や目的に合わせて、4つの項目から自由に選択できる。各項目をクリックすると、それぞれの内容の最初の画面が表示されるようになっている。

(2) 項目について

4つの項目は以下のようにになっている。

「地図で調べる」の最初の画面には「鬼石町」全体の地図が表示してある(図2)。地図上には、その場所にある文化財の名前が表示してあり、文化財名をクリックすることで、その文化財のページに移動することができる。特に鬼石町を代表する「桜山」、「三波石峡」、「浄土院」、「住居跡」は大きな字で表示してある。文化財は指定を受けているものだけでなく、古墳や句碑



図1 トップページ



図2 「地図で調べる」

など文化的に価値のあるものもある。また、「神楽・獅子舞」は、行われる寺社の名前が表示してある。

「年表で調べる」の最初の画面には、鬼石町の歴史と日本の歴史とを関連付けた年表が表示してある（図3）。鬼石町のできごとに関連する文化財名をクリックすることで、その文化財のページに移動することができる。また、日本のできごとへのリンクについては、鬼石町と関連のあったものとする。

「文化財一覧」の最初の画面には、文化財を一覧表形式で表示してある（図4）。鬼石町の文化財の中には、国が認めた大切なものがあることを、児童に認識させるため、国、県、町の各指定で分けている。文化財名をクリックすることで、その文化財のページに移動することができる。

「地名と伝説」の最初の画面には、「鬼石町」全体の地図が表示してある（図5）。地図には地名及びその場所に伝わる伝説が表示してあり、地名及び伝説をクリックすることで、鬼石町の大字や字（三杉町等）など地名の由来のページ及び名勝（五竜の滝等）や史跡（聖徳太子の墓等）にまつわる伝説のページに移動することができる。

なお、地名と伝説との混合をさけるため、地名は黒文字で、伝説は赤文字で表示してある。

(3) 文化財のページについて

鬼石町にある全ての文化財について、動画・静止画を用いてわかりやすく説明した。ここではその一例を紹介する。

「桜山」のページ（図6）には、上毛カルタにも読まれ、県内外にも有名な桜山の誕生から、今に至るまでの経緯が書かれている。また、「桜山」は自然にできたものではなく、火災などにあいながらもその危機を人々の努力によって乗り越えてきたことを知ることができる。さらに、最初に桜を植えた飯塚志賀氏の孫の飯塚馨氏による講話から、文化財を知る意義と守る意義を学ぶことができる。

「浄土院」のページは、寺の正式名称や本尊など寺についての概要から始まり、道忠禅師による開山から最澄も訪れた寺の隆盛時など歴史について書かれている。本堂内の静止画や県教委委員会編集による寺を説明した動画などを取り入れるなど、児童の興味・関心を高め

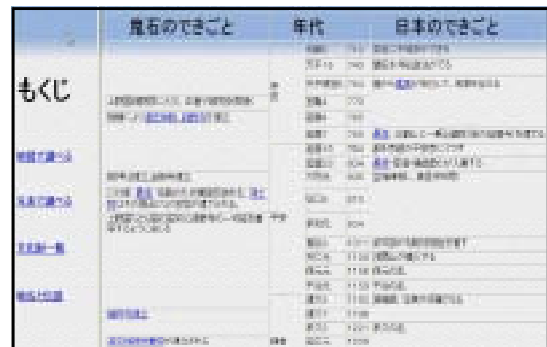


図3 「年表で調べる」

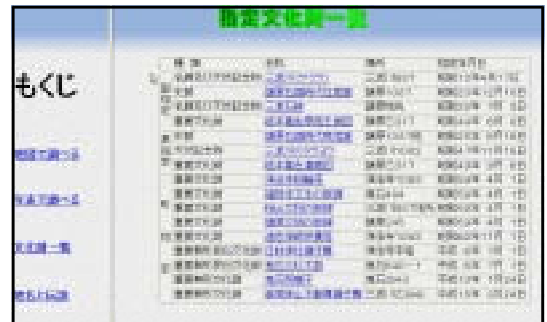


図4 「文化財一覧」



図5 「地名で調べる」



図6 桜山のページ

る内容となっている。

「三波石峡」のページは、三波石峡と名付けられた由来やその歴史が書かれている。また、三波石峡全 48 石の名前とその由来も紹介している（図 7）。既存のパンフレット等の記述は、表現もわかりにくく、難解な語も多かったが、表現を改めることで、理解しやすい内容にした。さらに、「護摩壇」、「阿弥陀」など児童にとって理解の困難なものについては、動画・静止画を用いて、その説明の補足を行った。

「住居跡」のページは、その発見から現在に至る経緯及び時代背景が書かれている。また、縄文人のくらしの様子（図 8）は、文字だけでなく動画による縄文時代の生活の様子も紹介することで、歴史を未学習の児童が興味をもって学習できる内容となっている。

(4) 「文化財に行ってみよう」について

指定文化財のページの中には、「文化財に行ってみよう」の動画がリンクされており、クリックすることで見る事ができる。これは、鬼石小学校または、鬼石北小学校をスタートに道路や標識、商店など児童になじみのある光景を映しながら、少しずつ文化財に近づいていくものである。

(5) 注釈のページについて

各文化財のページ上の専門用語や固有名詞などには、注釈のページへのリンクが設定されており、その語をクリックすることで注釈のページが表示される。このページは、本文を消すことなく、その上に新しいページを開くという形をとるため、注釈と本文の両方を見ることが可能である。例えば、鬼石祭りの屋台をそれぞれの時代ごとにならべその変遷を、視覚的に捉えることができる（図 9）など、有効に活用できる。

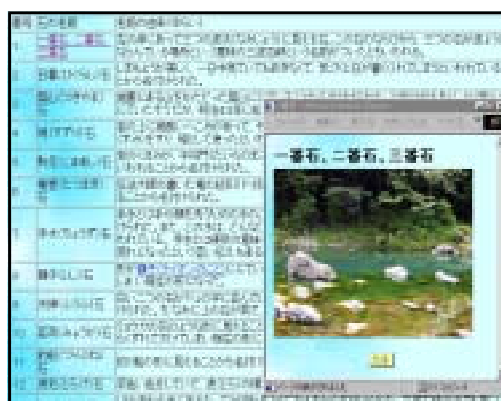


図 7 名前の由来

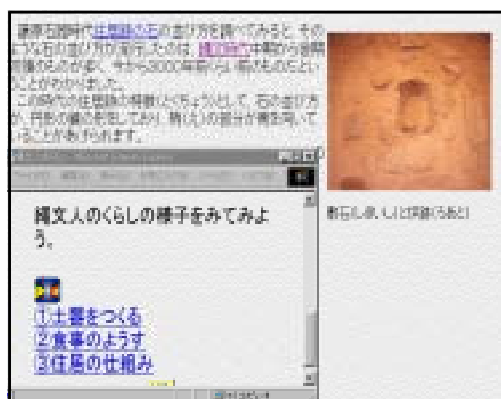


図 8 縄文人のくらしの様子



図 9 屋台の変遷

3 実践の結果と考察

(1) 学習指導計画

対象 鬼石町立鬼石小学校 4年1組28名（男子11名 女子17名）

教科等 社会科 単元名「地いきの古いものさがし」

単元目標 身近な地域の歴史を伝えるものに気付くとともに、それらを見つけ出したり調べたりすることを通して、人々が地域のくらしをより良くしていこうと願い、工夫・努力してきたことを理解する。

指導計画（6時間）

時	主な学習活動	学習への指導及び支援
1	・副読本や 本資料集 を用いて、鬼石町にも文化財があることを知る。	・「文化財に行ってみよう」を断片的に見せながら、文化財への興味・関心を高めるとともに、身近なところにも文化財があることに気付かせる。
2 3	・見学する「浄土院」について、大まかなことを知る。 ・「浄土院」の見学を行う。	・見学のねらいを明確にしてから、見学に出かける。 ・見学場所の説明は指導者が行う。
4	・ 本資料集 を使用して、見学を振り返り「浄土院」の調べ学習を行う。	・本資料集の使い方を説明する。 ・ 本資料集 を使用して調べさせる。
5	・ 本資料集 を使用して、「桜山」の誕生から、今日までの経緯を調べる。	・ 本資料集 を使用して調べさせる。 ・「動画」から文化財に対する人々の思いや願いについて気付かせる。
6	・ 本資料集 を使用して、「昔から続く伝統行事」について調べる。 ・ 本資料集 を使用して、鬼石町の文化財について、幅広い知識を得る。 ・「鬼石町の文化財」を学ぶ意義に気付く。	・ 本資料集 を使用して調べさせる。 ・本資料集を自由に使用させ、自分の興味のあるものを調べさせる。 ・本資料集にある飯塚馨氏の「郷土を知るとは郷土を愛する気持ちにつながる」という言葉に触れ、そこから、文化財を学ぶことの意義について考えさせる。

太字は本資料集を使用した時間

(2) 結果と考察

導入時に児童の文化財についての興味・関心を高めるために、マルチメディア資料集「ふるさと おにしまち」をプロジェクターを用いてスクリーンに投影し、地域に残る文化財の説明を行った（図10）。「文化財に行ってみよう」の画面が文化財に近づくにつれ、児童は画面に熱心に見入り、意外な場所にある文化財では、教室のあちこちから「え、あんなところに。」という声があがった。また、知っている文化財では、徐々に声が大きくなり、最後には「やっぱり。」「あたった。」などの歓声があがる場面もあった。

この授業をきっかけに、映し出された文化財へと足を運び、見学してきた児童もいた。

事前のアンケートでは、20%程度の児童が文化財に興味をもっていると回答していたが、授業後には、90%近い児童が文化財に興味をもてたと回答しており、その変化がうかがえる。さらに、80%以上の児童が今後、機会があれば他の文化財を見学したいと答えていることから、文化財への興味・関心の高まりを認めることができた。

見学後の調べ学習は、コンピュータ室において行い、本資料集をサーバーにコピーして活用した。ここで児童は「浄土院の相輪塔」や「桜山の大火」など、個々の興味・関心を生かした調べ学習を行っていた。児童によっては、「三波石峡」や「住居跡」など、興味をもった文化財に対して、自ら課題を見つけ、調べ学習を行っていた。また、疑問に思ったことなどを話し合い、理解を深める場面も見られた。さらに、本資料集を活用することで、普段は調べ学習を



図10 資料集を活用している場面

苦手としていた児童も、進んでコンピュータと向き合い、動画や静止画を興味深く見ながら、課題を調べ、カードに記入することができるなど、自主的な学習の様子が見られた。

文化財調査カードには、「桜山」の山火事や害虫駆除の講話から「桜山」に対する人々の努力や思いに関して記述している児童が多かった(図11)。また、「鬼石祭り」が長い歴史の中で変遷を繰り返しながら、人々の工夫や努力で今に至っていることや、一度は途絶えた獅子舞が、地域の人々の思いから再び始まったことなどを、本資料集の動画や説明で知ることができたと話してくれた児童もいた。

授業後のアンケートには、「神楽が映像でわかりやすかった」という感想とともに「鬼石町の文化財のことがいろいろわかってよかった。」「桜山が今あるのは桜山を守る人々の努力によるものだということがわかった」といった感想が多く見られた。

このことから、本資料集を活用することで児童は自主的に調べ学習に取り組み、文化財を受け継ぐ人々の努力に気付くことができたと考えられる。

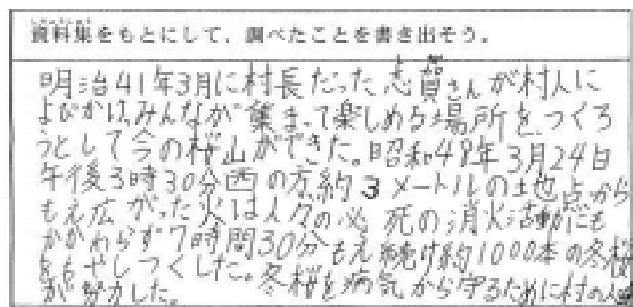


図11 文化財調査カード(抜粋)

研究のまとめと今後の課題

マルチメディア資料集「ふるさと おにしまち」を活用することで、児童は文化財に興味・関心をもつことができた。また、鬼石町の歴史や文化財を調べる学習では、自主的に学習に取り組み、鬼石町に様々な文化財があることを知った。そして、それらが長い年月、人々の努力によって受け継ぎ、守られていたことにも気付くことができた。

今後の課題として、広く集めた資料は、児童のいろいろなことを知りたいという知的好奇心を満たすには十分であるが、授業という時間的な制約がある場合には、学習のねらいにあった使用方法が求められる。そのため、本単元以外でも活用できるよう年間指導計画に位置付け、使用法を明記する必要がある。

また、「浄土院」など宗教的・歴史的背景が複雑な文化財を調べることは、4年生にとって、教師側の考えている以上に困難なものであることがわかった。今後は、さらに児童の意欲を高めるためにも、児童の声などを参考に、4年生も十分に理解できる説明を増やしたり、新たなコンテンツを追加するなどの改善を行っていきたい。

< 参考・引用文献 >

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ・『小学校学習指導要領解説 社会編』 | 文部科学省 |
| ・鬼石町社会科副読本『わたしたちの鬼石町』 | 鬼石町教育委員会(2002) |
| ・『鬼石町誌』 | 鬼石町誌編纂委員会(1984) |
| ・『鬼石町の文化財』 | 鬼石町教育委員会(2000) |